

平成22年度事業報告書

平成22年 1月 1日 から 平成22年12月31日 まで

特定非営利活動法人江戸城再建を目指す会

1. 主な事業の成果

平成22年度、当会は“草の根運動”の趣旨を広く一般、各界各層に広げつつ深化する第3段階にあった。一貫する最大の課題は、会員拡大である。当面の目標である会員総数3,000名に向けて、精力的に努力してきたが、やや伸び悩み、12月末現在で総数2,022名に留まった。一方、次の二つの画期的な試みにチャレンジした。

寛永度天守の「復元図」とCGの創作発表: 広島大学大学院三浦正幸教授の監修による、江戸城寛永度天守12枚の「復元図」と、外観図4面並びに内観図(1階)のCGを制作し、当会を通して、史上初めて世間一般に公表された。これにより長年の宿願だった「築城プラン構想(どんな城をつくるのか)」が大きく前進した。

「認定NPO法人」の資格取得に向けた動き: この一年間、寄付金に対する税制上の優遇措置を得られる「認定NPO法人」の資格取得に向けて、鋭意 準備を重ね、12月3日に東京国税局に認定申請をした。

.....

この二つの事業テーマへの新たなチャレンジを契機にして、更なる公益性への寄与を目指して、質的転換を図る取り組みを進めつつある。それによって当会が、規律と品位と活力に満ちた、“オンリー・ワン”のNPO法人として、新たな地平を切り拓く着実な一年となった。 主な事業活動の取り組みは、以下の通り。

1) 会員拡大と組織の活性化

「特別委員や正会員の集い」等を年3回開催し、現状の問題点を把握し日常活動に活かす取り組みが進めた。また、会費未納の会員に対しても電話によるコミュニケーションを通し継続的な参加を促した。

2) 「認定NPO法人」の申請にむけた本格的準備

12月3日の「認定NPO法人」申請に向けて、更なる公益性を高めるために以下の取り組みを行った。

情報公開: 当会活動の透明性を高め、広く社会にアピールする為、事業活動や財務諸表をホームページに公開すると共に、更なる「情報公開」に向けた本格的な公開準備作業を順次進めつつある。

規則、規範を遵守する組織風土の醸成; これまで以上に法令と規則、規範遵守を徹底する為に、当会としての会員規約、理事・理事会規約など、10種に亘る「行動規範」を改訂・作成した。

3) 寄付金・募金への取組みについて

事業拡大と資金の必要性が高まりつつある中、安定的財源の確保として、寄付金が重要な柱となっている。「何の為に」「どの程度の資金が必要か」等を明らかにし、心ある会員、篤志家の方々から22年度も計503万円もの浄財を頂戴した。しかし、「寄付金=金集め」との批判的な声もあり、一方で「寄付することによって、江戸城再建運動に参加し、支援したい」等の声もある。そうした多様な声に耳を傾けつつ、改めて寄付金・募金活動の意義を再確認すると共に具体的な取り組みを行う必要がある。

4) 事務局体制の強化について

今年度は、認定NPO申請、HPやブログの更新、江戸城寛永度天守復元図完成報告会の準備などを含めて、下支えになる有償の専任、専従的な事務局スタッフの配置が必要不可欠との認識から、事務局業務等について専任的なスタッフを配置した。一方、ボランティアの受入体制の整備など、組織化に向けた取り組みは今後の課題となった。

2. 事業活動の内容

再建江戸城の規模・様式、実施方法等、その具体化のための調査・検討

主な事業の成果(前述)

再建江戸城の有効活用のため、江戸の文化、歴史及び観光等への情報収集、調査・研究事業

6.17江戸城寛永度天守復元図完成報告会のシンポジウムでは「江戸城「天守」再建の今日的意義について多角的な面から掘り下げられた。今後は「今日的意義の具体化」を進めることが課題となった。

再建の意義・必要性及びその実現方法等の広報宣伝事業

当会の活動をより広く社会に伝えることを目指し、かわら版の発行など着実な取組みを進めた。HPでは、当会が掲載されたマスコミ記事やかわら版の掲載も初めた。交流の広場、ブログの充実、交流団体・組織との相互リンク等の取組みは、今後の課題となった。

江戸城再建の実現に向けた世論喚起のためのシンポジウム・イベント事業

「黒田涼氏と江戸城址を歩く」シリーズは、毎回好評で、定着しつつある。6.17江戸城寛永度天守復元図完成報告会は、地元の皆さまの多くの参加もあり、大成功裡に終了した。また、「江戸の文化」等、多彩で参加しやすく楽しいイベントの取組み不足は否めず、今後の課題となった。

江戸城再建に関わる各種団体・機関と連携をする事業

千代田区を始めとする諸団体や地域住民の方々との連携や交流は広まり、江戸城再建の趣旨が地域とのコミュニケーションを通して、地元で静かに受け入れられる空気が広がつつある。こういう動きを基軸にして、より一層、多くの組織・団体との交流を進めることが、今後の課題となった。

3. 事業の実施に関する事項:

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数(人)	受益対象者範囲・人数(人)	支出額(千円)
再建江戸城の具体化のための調査・検討 「築城プラン」推進	広島大学大学院文化財学研究室 三浦正幸教授により、「寛永度天守」の精密な「復元図」が策定された。 また、当会によりCGを策定し、復元図共に史上初の公開となり、大きく前進した。 江戸城寛永度天守復元図完成報告会を6月に開催した。(シンポジウム・イベントに掲載)	通年	広島 事務所 江戸東京博物館	10	不特定多数	2,820
江戸の文化、歴史観光等への情報収集、調査・研究	「江戸城再建の今日的意義」について、シンポジウムを通し、多角的な面からの意義が掘り下げられた。また、その内容を資料としまとめた。	通年 6月	長野 事務所 江戸東京博物館	3	不特定多数 500名	437
意義・必要性・実現方法等の広報宣伝 かわら版の発行 ホームページの充実	情報誌「江戸城かわら版」を年4回、特別号を1回発行(1、3、5、7、11月) HPにかわら版(創刊号から第22号)、当会が掲載されたマスコミ記事(設立時から現在に至る)を掲載した。また、入会申込フォーム改訂に着手した。	通年	事務所等	5 2	不特定多数	3,429
世論喚起のためのシンポジウム・イベント事業	「黒田涼氏と江戸城址を歩くシリーズ」を年4回開催 6.17江戸城寛永度天守復元図完成報告会を開催	4月 8月 10月 11月 6月	都内 江戸東京博物館	3 45	52名 32名 29名 28名 500名 不特定多数	1,748
江戸城再建に関わる各種団体・機関と連携をする事業	千代田区をはじめとする諸団体や地域住民の方々との連携や交流を進めた。 6.17江戸城寛永度天守復元図完成報告会は、千代田区等の後援があった。	通年	千代田区内等	5	不特定多数	719

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数(人)	受益対象者範囲・人数(人)	支出額(千円)
該当なし						